国立環境研究所気候変動適応研究センター 最終更新 2020 年 5 月 15 日

R for Windows を使って netCDF ファイルを CSV 形式に変換する手順

国立環境研究所気候変動適応研究センターでは「気候シナリオデータは netCDF 形式で提 供されることが多いけど、Excel 形式(CSV 形式)でもらえませんか?」というリクエストを 受けることがたびたびあります。実は R というフリーソフトを使えば、Windows 上で簡単 に netCDF ファイルから CSV 形式のファイルに変換することができます。本書では

- (1) Windows の PC に R をインストールする方法
- (2) netCDF 形式データファイルを R で読む方法
- (3) ある地点のデータを CSV 形式のファイルとして出力する方法

を解説します。netCDFファイルの読み方が分からなくて研究が進まない問題の解決に役立 てば幸いです。

Rとは

統計解析に特化したプログラミング言語であり、その実行環境を指す場合もあります。 Windows・Linux・Mac 向けに、オープンソースの実行環境ソフトウェア(コンソール)が 提供されており、誰でも自由に使うことができます。ここでは Windows 向けの解説を行っ ていますが、Mac でも同じようにできると思われます。

1. R for Windows のインストール方法について

【R for Windows のインストール】

「https://cran.r-project.org/」から、「Download R for Windows」をクリックする



(1) 次に「base」をクリック

R for Windows Subdirectories: Binaries for base distribution. This is what you want to install R for the first base time. CRAN Binaries of contributed CRAN packages (for R >= 2.13.x; managed by Uwe Ligges). There is also information on third party software available for CRAN Mirrors contrib Windows services and corresponding environment and make variables. What's new? Task Views Binaries of contributed CRAN packages for outdated versions of R (for R < old contrib Search 2.13.x; managed by Uwe Ligges). Tools to build R and R packages. This is what you want to build your own About R Rtools packages on Windows, or to build R itself. R Homepage The R Journal Please do not submit binaries to CRAN. Package developers might want to contact Uwe Ligges directly in case of questions / suggestions related to Windows binaries. Software R Sources You may also want to read the R FAQ and R for Windows FAQ. R Binaries

Note: CRAN does some checks on these binaries for viruses, but cannot give guarantees. Use the normal precautions with downloaded executables.

Documentation Manuals FAQs Contributed

Packages

Other

(2)「Download R 3.1.2 for Windows」(最新版のリンク)をクリックすると、exe ファイルが ダウンロードできます



(3) ダウンロードした「R-3.1.2-win.exe」をダブルクリックして、インストールを実行 します。

【R for windows の初期設定】

セットアップに使用する言語は「日本語」にします。

セットフ	マップに使用する言語の選択			
12	インストール中に利用する言語を選んでください:			
	日本語			
	OK キャンセル			

次へ



次へ

骨 R for Windows 3.1.2 セットアップ	
情報 続行する前に以下の重要な情報をお読みください。	R
セットアップを続行するには「次へ」をクリックしてください。	
GNU GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2, June 1991	<u>^</u>
Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc. 51 Franklin St, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.	
Preamble	
The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free softwareto make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software	
< 戻る(B) 次へ(N) >	キャンセル

インストール先はそのまま(次へ)

時 R for Windows 3.1.2 セットアップ						
インストール先の指定 R for Windows 3.1.2 のインストール先を指定してください。	R					
R for Windows 3.1.2 をインストールするフォルダを指定して、「次へ ください。	」をクリックして					
続けるには「次へ」をクリックしてください。別のフォルダーを選択するには「参照 ください。	」をクリックして					
C:¥Program Files¥R¥R-3.1.2	参照(民)					
このプログラムは最低 1.2 MB のディスク空き領域を必要とします。						
< 戻る(8) 次へ(11) >	キャンセル					
マシンが 64bit なので「32bit Files」のチェックは外しておき	ました。					
JS R for Windows 3.1.2 セットアップ						
コンホーネントの選択 インストールコンボーネントを選択してください。	R					
インストールするコンポーネントを選択してください。インストールする必要のな トはチェックを外してください。続行するには「ン次へ」をクリックしてください。	インストールするコンポーネントを選択してください。インストールする必要のないコンポーネン トはチェックを外してください。続行するには「ン次へ」をクリックしてください。					
カスタムインストール	•					
Core Files	64.3 MB					
32-bit Files	13.6 MB					
	13.0 190					
Pressage u arisia uoris	7.0 MB					
	7.0 MB					
現在の選択は最低 87.9 MB のディスク空き領域を必要とします。	7.0 MB					

起動時オプションは「いいえ(デフォルトのまま)」で、変更せず						
骨 R for Windows 3.1.2 セットアップ						
起動時オプション 起動時オプションをカスタマイズしますか?	R					
「はい」または「いいえ」を選択し、「)次へ」をクリックして下さい						
<mark><戻る(1) 次へ(1) ></mark> そのまま	キャンセル					
骨 R for Windows 3.1.2 セットアップ						
プログラムグループの指定 プログラムアイコンを作成する場所を指定してください。	R					
セットアップはスタートメニューにプログラムのショートカットを作成します。 続けるには「次へ」をクリックしてください。違うディレクトリを選択するには「参照」をクリックして ください。						
	参照(R)					
□ プログラムグループを作成しない(□)						
< 戻る(1) 次へ(1) >	キャンセル					

そのまま



完了



【参考文献】

https://akiyoko.hatenablog.jp/entry/2014/11/07/042801 https://code.i-harness.com/ja-jp/q/a6969c https://qiita.com/IEOHS/items/eb6a5b0bb896ee024310

2. R for Windows で netCDF データを CSV へ変換

ここでは netCDF ファイルのデータを加工し、CSV ファイルとして出力する。

2.1 netCDFファイルを入力する

(1) デスクトップ上で R for Windows のアイコンをダブルクリック



(2)下の写真のような画面が出てくる



(3)画面上部の「パッケージ」のタブをクリックし、 「CRAN ミラーサイトの設定」をクリックする。 すると右図のような一覧が出てくるので、「Japan (Tokyo)」 を選択する。

(4) R for Windows で netCDF データを扱うために、ncdf4 のパ ッケージをインストールする。

>	<pre>install.packages("ncdf4")</pre>
>	library(ncdf4)



(5) RでnetCDFファイルを開くには「nc_open()」というコマンドを使う。

> nc <- nc_open("C:/Users/Masumoto/Desktop/ccb_Amon_MIROC5.nc")</pre>

※nc_open()コマンドの()内では入力する netCDF ファイルのディレクトリと名前を指定 する。今回の例ではデスクトップに置いていた ccb_Amon_MIROC5.nc のファイルを入力 した。また入力したいファイルのディレクトリを調べるためには、入力するファイルを右ク リックして「プロパティ」をクリックすると、「場所」の欄にそのファイルのディレクトリ が書かれている。(\を/に置き換えることを忘れずに)

(6) print()コマンドで netCDF ファイルの中身を知ることができる。(linux でいう ncdump -h と同じようなもの)

> print(nc)

実行すると下のような文がかかれている。

```
> print(nc)
File C:/Users/Masumoto/Desktop/ccb Amon MIROC5 abrupt4xCO2 r10ilp1 210
     4 variables (excluding dimension variables):
        double time bnds[bnds,time]
        double lat bnds[bnds,lat]
        double lon bnds[bnds,lon]
        float ccb lon, lat, time]
            standard name: air pressure at convective cloud base
            long name: Air Pressure at Convective Cloud Base
            units: Pa
            original name: CBASEP
            cell methods: time: mean
            cell measures: area: areacella
            history: 2011-12-28T08:30:11Z altered by CMOR: replaced mi
            missing value: 1.00000002004088e+20
            FillValue: 1.00000002004088e+20
            associated files: baseURL: http://cmip-pcmdi.llnl.gov/CMIP
```

図中の「float」と書かれている箇所の右隣にあるものがこのファイルの変数である。 今回の場合、「ccb」という変数が格納されている。また変数の右にあるもの(今回の場合、 lon, lat, time)は、その変数の次元を示している。 2.2 データを加工する

(1) 抽出したいデータの変数を指定するために ncvar_get()コマンドを使う。

> var <- ncvar_get(nc,"ccb")</pre>

※ 「 <- 」で変数 var が定義され、そのなかに"ccb"のデータが入る。

(2) 抽出した変数の次元数を確認する → dim()コマンド

> dim(var) [1] 256 128 63

※今回の場合、変数(ccb)の次元数は lon(緯度情報)が 256 個、lat(経度情報)が 128 個、 time(時間情報)が 63 個あることが確認できる。

(3)次元を指定して、その時の変数の値を取得してみる。

例えば lon が 12、lat が 28、time が 55 の変数の値を取得してみると、

> var[12,28,55]
[1] 95885.64

と表示される

また lon が 12、lat が 28 におけるすべての time のデータを取得しようとすると、

```
> var[12,28,]
[1] 94462.98 96408.25 94840.66 96988.81 97758.14 96177.09 95172.75
[13] 93747.20 94800.75 96115.93 95623.91 97640.10 95381.67 95943.80
[25] 96656.59 96985.69 94777.03 96553.87 97246.79 96993.26 97083.07
[37] 96536.62 94992.66 95943.61 95939.80 95826.66 96514.73 96203.48
[49] 95444.99 96442.67 98262.78 95588.52 97427.27 97173.66 95885.64
[61] 96516.94 95899.20 97499.01
```

と表示される。

(4) 緯度、経度、時間の情報を確認する。

latarr <- ncvar_get(nc, "lat")</pre>

```
lonarr <- ncvar_get(nc, "lon")</pre>
```

```
timarr <- ncvar_get(nc, "time")</pre>
```

で緯度、経度、時間の情報を変数 lonarr, latarr, timarr に抽出する。

lon[12]

と打てば、12番目の経度の値が表示される。

2.3 CSV ファイルを出力する

(1) まず CSV ファイルに出力したいデータを定義する。

今回は例として lon が 12、lat が 28 におけるすべての time の変数を取り出すことにしま す。(2.2(3)で用いた例と同じ)

> T <- var[12,28,]

- ※ 何かを定義するときは 「 <- 」という文字を使います。
 今回の場合、lon が 12、lat が 28 におけるすべての time の変数を T と定義しています。
- (2)(1)で定義した変数を CSV ファイルに出力する。

CSV ファイルとして出力するときには「write.csv()」というコマンドを用います。

```
> write.csv(T,file="C:/Users/Masumoto/Desktop/20200327.csv")
```

※今回の場合(1)で T と定義した変数を CSV ファイルとして、PC のデスクトップに 「20200327」という名前を付けて出力しています。

これで CSV ファイルが作成されます。 実際に作成したファイルを確認すると、、、

	А	В	С
1		х	
2	1	64856.31	
3	2	65129.14	
4	3	65460.86	
5	4	65720.44	
6	5	65832.02	
7	6	65683.73	
8	7	65428.35	
9	8	65420.95	
10	9	65896.97	
11	10	65484.12	
12	11	65444.87	

こんな感じになります。

A列に time、B列にその時の変数が書かれています。